

KAWAI

もっと伝えたい、感動を。



KAWAI



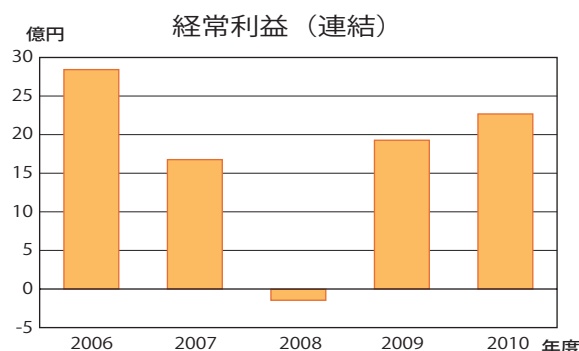
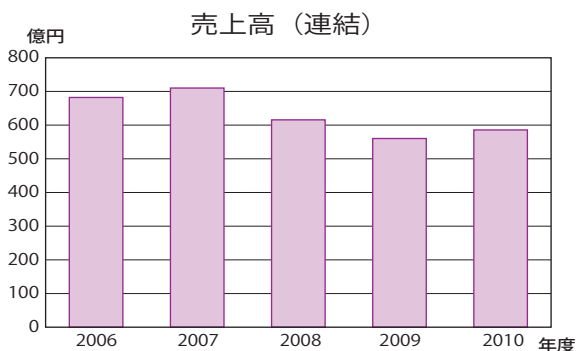
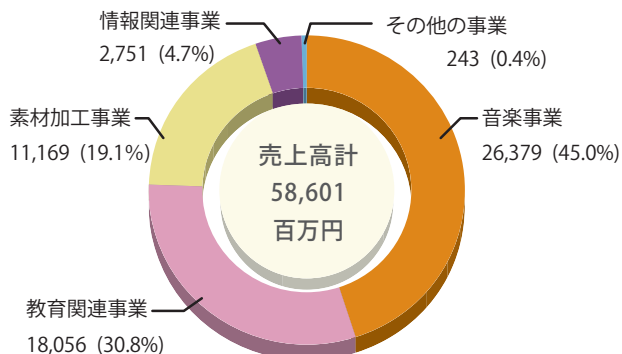
環境社会報告書 2011

カワイグループの事業と会社の概要

社 名 株式会社河合楽器製作所
 本 社 静岡県浜松市中区寺島町 200 番地
 創 立 1927 年（昭和 2 年）8 月 9 日
 設 立 1951 年（昭和 26 年）5 月 15 日
 代表者 代表取締役社長 河合弘隆
 資本金 6,609 百万円（2011 年 3 月末現在）

年 度		2008	2009	2010
売上高 (百万円)	単独	52,372	47,241	49,798
	連結	61,593	56,057	58,601
従業員数 (名)	単独	1,755	1,648	1,561
	連結	2,797	2,851	2,830

事業セグメント別の売り上げ構成（2010 年度連結）



当社グループの主な事業

楽器事業

ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、楽器付属品、楽器玩具の販売及び楽器調律・修理の役務提供業務

- 国内での販売
全国直営店・販売代理店
(株)ディアパソン 他
- 海外での販売
カワイアメリカコーポレーション
カワイヨーロッパ GmbH
カワイカナダミュージック Ltd.
カワイオーストラリア PTY.Ltd.
河合貿易（上海）有限公司
カワイ UK Ltd.
海外販売代理店及び商社
- 楽器の調律・修理
(株)河合楽器製作所 調律サービス部
- 楽器の国内での製造
(株)河合楽器製作所 竜洋工場
メルヘン楽器(株)
- 楽器の海外での製造
ミディミュージックセンター Inc.
PT. カワイインドネシア
河合楽器（寧波）有限公司



教育関連事業

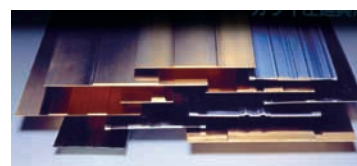
音楽教室・体育教室の運営、教材販売、楽譜・音楽教育用ソフトの製造及び販売



素材加工事業

電子電気部品用金属材料加工、自動車部品用材料加工、防音室・音響部材の製造及び販売

- 金属異形圧延加工品の製造 カワイ精密金属(株)
- 自動車部品用材料の製造 (株)カワイハイパーウッド
- 防音室・音響部材の製造及び販売 (株)カワイ音響システム



情報関連事業

- IT機器の販売・保守及びコンピュータソフトウェアの開発・販売
(株)カワイビジネスソフトウェア

その他の事業

- 金融関連事業、保険代理店事業
(株)カワイアシスト

編集方針

目次

内 容

カワイグループにおける環境活動側面に加え 2003 年度からはコンプライアンス等社会的側面を掲載し企業における社会的責任の視点を充実させ 2004 年度版からタイトルも「環境報告書」から「環境社会報告書」に変更いたしました。

なお、経済側面につきましては、概要を前ページに記載しました。

カワイグループの事業内容の詳細は当社ホームページをご参照願います。

対 象

お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、地元住民・NGO、行政・国際機関など多様なステークホルダーの皆様を対象としています。

2011 年版について

- ・出来得る限り各項目ごとに方針（ポリシー）を記述し、皆様にカワイの取り組みをわかりやすく伝えるように努めました。
- ・事業活動にともなう環境配慮につきまして環境側面ごとにまとめました。
- ・関連資料は資料編にまとめました。
- ・インターネット環境の普及や紙資源の節約を考慮し、2009 年版から、紙媒体でなく、ホームページ上での公開とさせていただきます。

報告対象期間

- ・2010 年度（2010 年 4 月～2011 年 3 月）を主体としていますが、一部重要な事項につきましては 2011 年 4 月以降の最新情報を含んでいます。
- ・集計方法の見直しなどにより既報データを一部修正し掲載した項目・数値があります。

報告対象組織

- ・(株)河合楽器製作所 本社・竜洋工場
- ・メルヘン楽器(株)
- ・カワイ精密金属(株)
- ・(株)カワイハイパーウッド
- ・(株)カワイ音響システム

カワイグループの事業と会社の概要	1
編集方針	2

はじめに

社長コミットメント	3
カワイの経営の理念・行動指針	4
カワイグループのあゆみ	5

東日本大震災への対応

東日本大震災への対応と支援活動	6
節電活動	8

環境報告

カワイの環境への取り組み	9
地球環境憲章・環境方針・環境推進組織	
環境経営	10
2010 年度の環境目標と実績	
事業活動にともなう環境配慮	11
地球温暖化の防止	
廃棄物削減・再資源化	
グリーン調達	
環境配慮型製品	15
環境パフォーマンス	17
マテリアルバランス	

社会性報告

経営計画	18
コーポレート・ガバナンス	19
株主・投資家の皆様とともに	22
お客様との関係	23
文化貢献活動	
コミュニケーション	25
地域社会との共生	
情報発信	

資料編

環境負荷サイト別一覧	29
第三者意見	30
アンケートのお願い	31

カワイホームページアドレス

カワイホームページ	http://www.kawai.co.jp/
環境への取り組み	http://www.kawai.co.jp/company/activity/ambience.asp
IR サイト	http://www.kawai.co.jp/ir/
製品情報	http://www.kawai.co.jp/products.asp
直営店情報	http://shop.kawai.co.jp/
健康事業	http://www.kawai.co.jp/kenkou/
文化貢献事業	http://www.kawai.co.jp/company/activity/culture.asp
教育事業	http://www.kawai.co.jp/school/
カワイ音楽教室	http://www.kawai.co.jp/school/music/

はじめに

快適で豊かな生活環境の創造のために

社長コミットメント

はじめに、東日本大震災により被災された皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

カワイグループでは震災直後に緊急対策本部を設置し、被災地域の従業員や講師、教室生徒の安否確認を何よりも優先し対応にあたりました。その後、災害復興特別委員会を編成し、全社統一スローガン『がんばろう日本! つながろう音楽で! 〜カワイは「日本の元気」を応援します〜』を掲げ、支援活動に全社をあげて取り組んでおります。

当社ならではの活動として、震災直後から現地の音楽教室・体育教室の講師が避難所を訪れ、ピアノ演奏やエコノミークラス症候群対策のための予防体操の指導などを行いました。また、カワイ表参道「パウゼ」では、総勢 27 名の著名なピアニストにご協力をいただき、全 9 回のチャリティーコンサートを開催いたしました。

2010 年 4 月からスタートした第 3 次中期経営計画では、将来を見据えた事業基盤づくりと持続的発展のための構造改革に取り組んでおります。

(1) 成長市場へ向けたチャレンジ (2) 基盤事業の構造改革による収益性向上を基本方針とし、7 つの重点戦略《①グローバルブランドの確立 ②中国市場における総合力の発揮 ③国内市場の効率的販売体制の構築 ④ピアノの世界販売の拡大 ⑤さらに魅力ある音楽教室をめざす ⑥全年齢の健康づくり支援事業の拡大 ⑦金属事業の生産体制の強化》を推し進めております。

環境分野では、楽器用木材資源の有効活用、木材に代わる素材の活用、防音室による快適な音環境の提供に取組み、健康分野では、リトミック教育、

大人の音楽教室、子供から高齢者までの体育・健康教室、介護予防教室などの事業分野での成長を目指しております。

カワイグループは「環境への配慮」として業界においていち早く生産部門で ISO14001、エコアクション 21 といった環境マネジメントシステムを導入し、CO₂ 排出量削減、廃棄物排出量削減に努めてまいりました。さらに、インドネシアでの植林活動、ピアノの再生利用など、循環型社会形成のための活動にも引き続き取り組んでまいります。

現代は地球温暖化やエネルギー・資源問題など、地球規模の課題を数多く抱えておりますが、当社は音楽文化の発展に貢献することを基本に、皆様の生活・文化・環境に少しでも貢献できる企業として努力を続けてまいります。

今後とも皆様のご理解とご協力をいただけますよう、この環境社会報告書が皆様とのコミュニケーションツールとなれば幸いに存じます。どうぞ忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。



河合弘隆

カワイの経営の理念・行動指針

創業以来私たちはより良い楽器作りと音楽文化への貢献を目的として企業活動を行ってきました。社会や産業の構造が大きく変化する現在において、より幅広く人々の生活文化に貢献してゆくために、カワイは次の通りの経営理念及び行動指針に則り、企業活動を推進してまいります。

カワイの経営の理念・行動指針

経営の基本的な考え方と方向性

カワイの原点は音楽
社会貢献

顧客志向性
企業倫理

新しい時代への対応
持続社会

関連な企業風土の創造
社会的責任

創業以来私たちはより良い楽器作りと音楽文化への貢献を目的として企業活動を行ってきました。

社会や産業の構造が大きく変化する中で、私たちがより幅広く人々の生活文化に貢献してゆくため、また新時代にむけて新しいカワイを創生させるため、ここに新経営の理念を制定するものである。

経営の理念

創造性豊かな好感度企業を目指して

快適で豊かな生活環境を創造します
お客様の満足を第一に商品・サービスを提供します
新しい時代に向かって企業活動を推進します
社員を大切にし、明るい企業をめざします

行動指針

現状に満足せず、常に開拓者精神に燃えて

失敗を恐れずアグレッシブに行動しよう
常に向上心を持ち自己研鑽に励もう
豊かな創造性を発揮し、変化する時代に挑戦しよう
自然との共生を大切に、社会に役立つ活動を積極的に行おう
音楽文化の担い手として、自信と誇りを持って行動しよう

KAWAI
1966年4月1日制定

カワイグループ全体の 活動の根底をなすもの

積極果敢

自己の向上

挑 戦

地球環境保護活動

継 続

カワイグループのあゆみ

事業沿革と環境活動の歴史

事業沿革	環境活動
1927 河合小市 河合楽器研究所を創立 ピアノの製造・販売を開始	1920
1929 河合楽器製作所と改称	
1935 合名会社河合楽器製作所と改組	1950
1951 株式会社河合楽器製作所と改組	
1955 河合滋 社長に就任	1960
1956 カワイ音楽教室を創設	
1961 ピアノ組立工場として舞阪工場完成	1970
1963 アメリカにカワイアメリカコーポレーションを設立	
1966 カワイ音楽教室中央講師養成所（カワイ音楽学園）を創設	
1967 カワイ体育教室を創設	
1976 西ドイツにカワイドイツランド GmbH を設立	1975 生産技術部内に公害課設置 カワイの環境元年
1979 西ドイツにカワイヨーロッパ GmbH を設立	1978 生産本部 環境管理課に改めグループ全体の管理をスタート
1980 金属圧延加工のカワイ精密金属(株)を設立 グランドピアノ専門工場として竜洋工場完成	1980 『森の中の緑の工房』 竜洋工場完成
1981 オーストラリアにカワイオーストラリア PTY.Ltd. 設立	
1984 (株)カワイビジネスソフトウェア設立	
1988 アメリカにメディミュージックセンター Inc. を設立	
1989 河合弘隆 社長に就任	1990
1991 マレーシアにカワイアジアマニュファクチャリング SDN.BHD を設立	1994 地球環境憲章制定 シンボルマーク決定 全社的な推進組織の地球環境委員会発足
1996 新経営の理念、行動指針制定	1996 環境推進室に名称変更
1997 カワイ精密金属(株) 浜松事業所 ISO9002 認証取得	1997 竜洋工場で ISO14001 認証取得 楽器業界で世界初 舞阪工場「静岡県労働基準局長 優良賞」受賞
1998 (株)カワイハイパーウッド設立	1998 舞阪工場で ISO14001 認証取得 竜洋工場「エネルギー管理優良工場」として中部通商産業局長表彰
2001 インドネシアに PT. カワイインドネシアを設立	2000 2001 タイプIII環境ラベル「製品環境宣言」JEMA! 開示 舞阪工場「危険物優良事業所」表彰
2002 中国に河合貿易（上海）有限公司を設立 カワイ倫理規範、倫理行動規程制定	
2003 カワイ精密金属(株) 浜松事業所 ISO9001 認証取得	2003 工場統廃合によるインフラの整備 木屑ボイラーの廃止
2004 カワイ精密金属(株) ISO9001 認証を全社に拡大 中国に河合楽器（寧波）有限公司を設立	2005 竜洋工場が緑化優良工場として(株)日本緑化センター会長奨励賞 受賞
2005 竜洋工場 ISO9001 認証取得	2006 河合楽器が静岡県緑化推進協会から「緑の募金」の感謝状 木材調達ガイドラインの開示
2007 創立 80 周年 電子ピアノ組立を行うカワイインドネシア第 3 工場設置 中国上海市内にカワイ音楽教室第 1 号教室開設	2007 (株)カワイハイパーウッドでエコアクション 21 認証取得 「カワイの森」インドネシア植林事業開始
2008 河合楽器（寧波）有限公司 ISO9001 認証取得 PT. カワイインドネシア第 3 工場 ISO9001 認証取得	2008 産業廃棄物適正処理推進功労者に対する静岡県知事褒賞 受賞
2009 国内ピアノ生産工程を竜洋工場に統合 PT. カワイインドネシア第 1・第 2 工場 ISO9001 認証取得	2010 2010 メルヘン楽器(株)でエコアクション 21 認証取得 2011 カワイ精密金属(株)でエコアクション 21 認証（申請中） PT. カワイインドネシア第 1・第 2 工場で ISO14001 認証取得 生産統括部 CS 環境室に名称変更

公害防止

環境保全

環境経営

東日本大震災 への対応

カワイ全社員の気持ちを一つにして
復旧・復興活動に取り組んでいます

東日本大震災への対応と支援活動

3月11日(金)14時46分、日本で観測史上最大規模のマグニチュード9.0の東日本大震災が発生し、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。カワイでは、地震発生後直ちに緊急対策本部を設置し、被災地域の社員や講師、教室の生徒さん及びご家族の安否確認や物件の被害状況確認を行いました。

安否確認と被害状況の調査

3月11日の地震発生直後より「緊急対策本部」を設置し、被災地域の従業員や講師、教室生徒の安否確認および、会社施設の被災状況確認を開始するとともに、今後の対応について検討しました。また、静岡県西部に大津波警報が発令されたため、従業員の安全を考慮し、直ちに竜洋工場勤務の従業員に対し帰宅指示を発しました。

3月14日には緊急対策会議を開催し、全社に向けて、安否確認や被災状況の把握指示を電子メールや社内イントラネットにより発信しました。

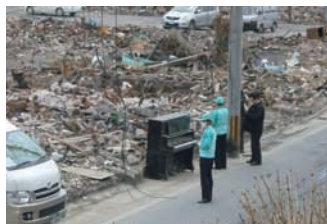
当社では、従業員や講師の安否確認を何よりも優先し、未曾有の大災害であったにも関わらず、3月19日に奇跡的にも従業員、音楽教室、体育教室講師全員の無事が確認できました。



緊急対策会議

被災地視察訪問

4月初旬には、緊急対策本部長、国内営業本部長らが被災地を訪問しました。会社施設の被災状況を確認するとともに、現地の従業員や講師らと当面の要望や今後の課題など、時間をかけて直接対話をしました。



津波で流されたピアノ



講師への説明会

義援金の寄託

当社では、被災者の方々の救済や、被災地の一日も早い復興に役立てていただくため、義援金を日本赤十字社を通じて寄託しました。

また、合わせて当社グループ内において被災した従業員や講師、生徒のための義援金を募り、支援を行っております。



日本赤十字社への義援金寄託

復興活動へ統一スローガンとロゴを制定

当社では、東日本大震災への復興活動にあたり、全社統一のスローガンとロゴを制定し、様々な復興活動に統一性を持って取り組んでおります。

デザインのコンセプトは、日本のシンボルである日の丸を音符で包み込み、音楽を通じた当社ならではの活動により、被災地はもちろん日本全国が元気になってほしいという願いを表わしたものです。



がんばろう日本！つながろう音楽で！
～カワイは「日本の元気」を応援します～

様々な形で復興支援を行っています

音楽・体育教室講師による避難所への訪問活動

音楽教室・体育教室では、3月下旬から5月にかけて、避難所となっている幼稚園や小学校などを訪問し、片付け・清掃・整備などの復興支援や、避難所で生活されている方たちに、心と体をリラックスしていただくため、それぞれの講師が持っているスキルを活かしたコラボレーションによるリズムゲームやミニコンサートを実施しました。



仙台市蒲町中学校



遠藤郁子さん

チャリティーコンサート at カワイ表参道

当社と関わりが深い著名ピアニストの皆様から暖かいご協力を賜り、カワイ表参道「パウゼ」において9回にわたりチャリティーコンサートを開催いたしました。

第一線で活躍する総勢27名のピアニストの演奏を聴くことができるということで、予約の段階でSOLD OUTになったり補助席を用意する公演が続出する人気ぶりとなりました。

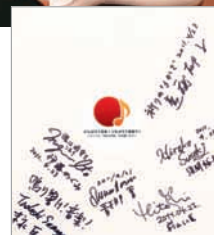
公演後にはピアニスト自ら募金箱を持ち義援金を集めていただきました。このチャリティーコンサートでは、延べ1,138人のお客さまにご来場いただき、825,624円をお預かりすることができました。義援金はコンサートの収益金と合わせ、すべて日本赤十字社に寄託しました。ご協力くださった皆様に心より御礼申し上げます。

《ご出演いただいたピアニストの皆様》

- 4月21日 青柳晋さん、末永匡さん、前山仁美さん
- 4月23日 遠藤郁子さん、伊藤めぐみさん、須関裕子さん
- 4月27日 深沢亮子さん、稲田潤子さん、五味田恵理子さん
- 5月12日 弘中孝さん、石井克典さん、菊地裕裕さん
- 5月17日 田崎悦子さん、P. ネルセシヤンさん、松本和将さん
- 5月24日 北川暁子さん、迫昭嘉さん、東誠三さん
- 6月7日 及川浩治さん、山岸ルツ子さん、外山啓介さん
- 6月16日 海老彰子さん、根津理恵子さん、入江一雄さん
- 6月27日 清水和音さん、島田彩乃さん、江崎昌子さん



コンサート後の募金活動



ピアニストの皆様からの寄せ書き

カワイグループ全社で節電に取り組みました。

節電活動

節電への取り組み

東日本大震災を受けて、全国的に節電への取り組みが企業の大きな課題となりました。カワイグループでは全社をあげ電力消費量 15%削減を目標とした取り組みを行っており、さまざまな節電対策を実施いたしました。

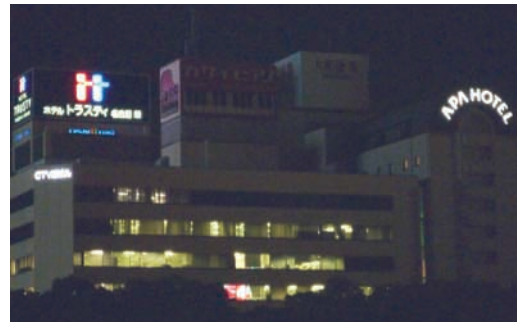
竜洋工場では廃パレット利用によるプランターを作製し、緑のカーテンを設置するなどの対策をいたしました。廃材を利用することで廃棄物の削減にも貢献しております。

本社では、冷房の使用時間を制限することで大きな節電効果を出しました。

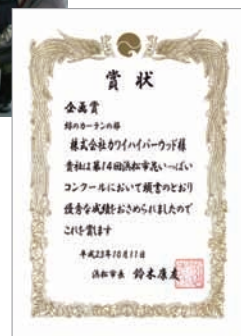
また、浜松市が主催する「市制100周年記念 第5回全国緑のカーテンフォーラム in 浜松」では、子会社である(株)カワイハイパーウッドにおいて一般市民向けに大規模な緑のカーテンの見学会が行われ、新聞各紙に取り上げられました。



全社で啓発に採用した節電ポスター



名古屋ショッピング：屋上ネオン広告塔の消灯



中日新聞 2011.8.6 に、掲載されました。

(株)カワイハイパーウッド：緑のカーテン活動

(株)カワイハイパーウッドで行った緑のカーテンは浜松市の「第14回花いっぱいコンクール」において緑のカーテン部門で企画賞を受賞しました。

環境報告

カワイ地球環境憲章に定める基本理念と行動指針に基づいて環境保全活動を展開しています

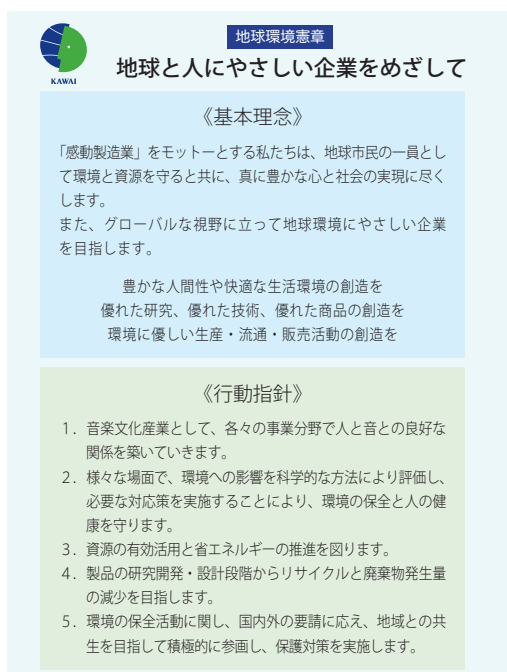
カワイの環境への取り組み

地球環境憲章・環境方針・環境推進組織

地球環境憲章

カワイはすばらしい地球環境を後世に伝えるためには、総合的かつ継続的な取り組みが必要であると認識しています。

世界の良き企業市民として環境の保全に努めつつ、人と地球にやさしい優れた商品を通じて社会からの信頼と共感を得ることができる道を進むために「地球環境憲章」を1994年に制定しました。

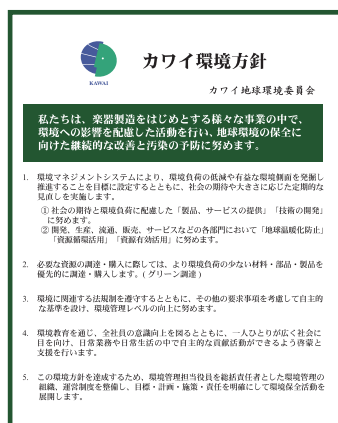


地球環境憲章

カワイ地球環境委員会では「地球環境憲章」を受け「環境方針」を制定しています。《有益な環境側面の発掘》《地球温暖化防止》《資源循環活用》《資源有効活用》《グリーン調達》等の推進に全社一丸となって邁進しています。

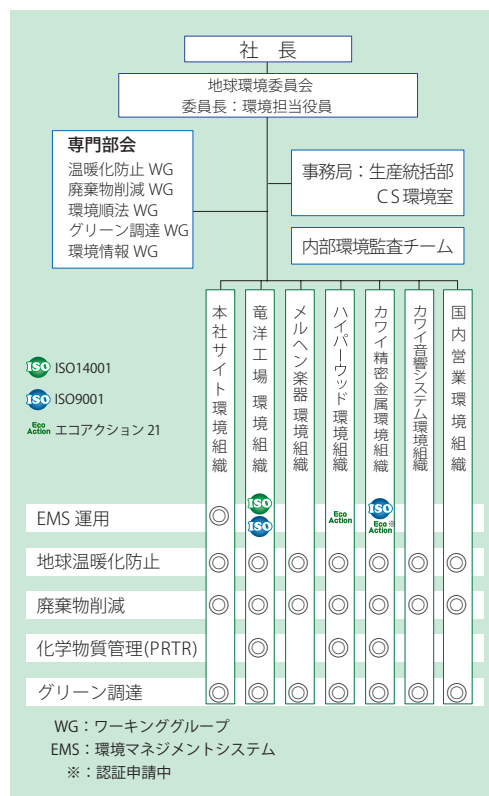
詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.kawai.co.jp/company/activity/ambience.asp>



環境推進組織

環境経営を推進する組織として、1994年に環境担当役員を委員長とする地球環境委員会を設置し、環境保全に関する全社環境方針や目的・目標を設定し活動しています。毎年環境月間の6月には各サイトの昨年度実績及び当年度の目標を報告する全体会議を開催しております。



環境マネジメントシステム(EMS)

事業者が自主的に環境保全に関する取り組みを進めるに当たり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくシステム。国際規格のISO14001、環境省が策定したエコアクション21などがある。

環境監査

当社では、環境マネジメントシステムで要求されている継続的改善のPDCAサイクル（計画・実行・検証・対応の繰り返し）をまわすため、定期的に「外部審査」「内部環境監査」を実施しています。

外部審査

認証取得サイトでは、認証機関による毎年のサーベランス審査および定期毎の更新審査において、環境マネジメントシステムが有効に機能していることの審査を受けています。

CO₂ 排出量・廃棄物排出量の削減に取り組んでいます

環境経営

2010 年度の環境目標と実績

2010 年度から 2012 年度の 3 ヶ年計画

地球温暖化防止を重点課題と考え、CO₂ 排出量の削減に全社で取り組んでいます。

2007 年度から 2009 年度までの前 3 ヶ年計画では総量で 2006 年度比 -15%の削減目標に対し -19%と目標を達成できました。今後の取り組みを地球環境委員会で検討した結果、改正省エネ法の努力義務目標を考慮して 2010 年度からの 3 ヶ年で 2009 年度基準で毎年、原単位で 1%削減することを環境目標と設定しました。

環境目標 (2010 年度～2012 年度)				
基準年		2009 年度		
地球温暖化の防止	CO ₂ 排出量	毎年 1%削減(原単位)		
資源の循環活用	廃棄物量	毎年 1%削減(原単位)		

2010 年度の実績

各事業所の環境組織では活動の主な目的・目標として「生産効率の向上」「不良率の削減」を掲げて環境マネジメントシステムの推進に取り組んでまいりました。

2010 年度の実績は CO₂ 排出量は原単位で 2009 年度比 -2.4%と目標を達成できましたが、廃棄物に関しては原単位で +9.3%と増加し、目標を達成できませんでした。

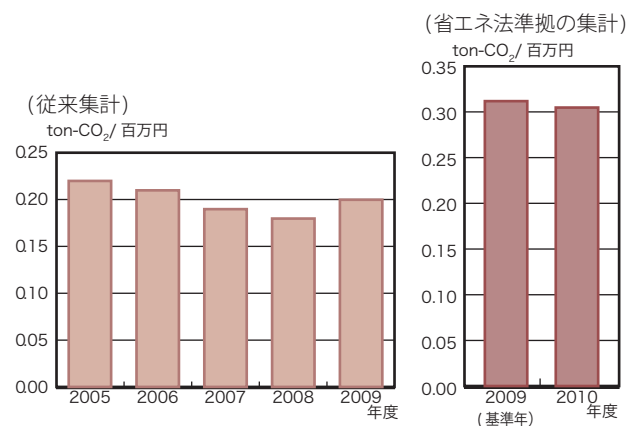
	指 標	2009 年度	2010 年度		
		実 績	実 績	増 減	評 価
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量原単位 (kg-CO ₂ / 百万円)	312	305	-2.4%	◎
	エネルギー量原単位 (MJ/ 百万円)	6,482	6,328	-2.4%	
資源循環活用	廃棄物排出量 (総量) (kg)	1,005,048	1,148,263	+14.2%	
	廃棄物排出量原単位 (kg/ 百万円)	17.9	19.6	+9.3%	×

評価 ◎:達成 ×:未達成

環境経営指標

CO₂ 排出量原単位につきましては、2009 年度まで当社グループ内の国内生産拠点および主要支社の CO₂ 排出量の集計を全売上高で除した指標を用いてきましたが、改正省エネ法に対応するために 2010 年度より全ての支社・営業所・音楽教室などを含めたカワイグループ全体のエネルギー使用量を把握するようにしております。

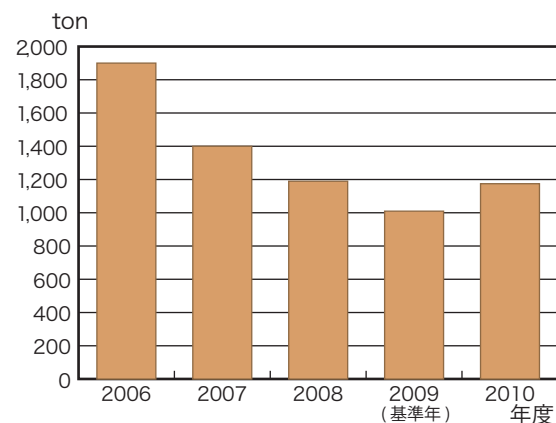
CO₂ 排出量原単位



また、産業廃棄物の排出量に関して、2009 年度に対しては 14%増加しました。

これは、生産合理化に伴う部品製造工程の構内への移設等の影響によるものであり、今後の取り組みの重点課題として検討を進めてまいります。

産業廃棄物排出量



CO₂ 排出量の削減と CO₂ 吸収への取り組み

事業活動にともなう環境配慮

地球温暖化の防止

地球温暖化防止への取り組み（CO₂ 排出量削減）

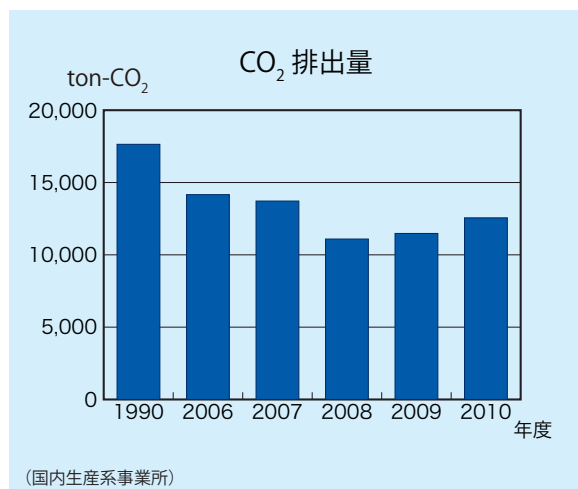
当社グループでは地球温暖化防止を環境経営の重点項目と位置づけ、工場やオフィスのエネルギー使用による CO₂ の排出や物流による CO₂ の排出の削減を目的・目標に掲げ活動しています。

工場の統廃合により、生産系事業所の CO₂ 排出量は京都議定書の基準年である 1990 年度に比べて 32%削減されており、京都議定書の日本の目標値 6% 削減に対して当社は大幅な削減を達成しています。

なお、1990 年当時の支社・営業所・音楽教室を含む CO₂ 排出量の推定を行っており、この場合、1990 年比約 29%の削減と推定しております。

また、当社グループの工場では、ピアノ製造の竜洋工場と金属加工のカワイ精密金属（株）松本工場の 2 工場が第二種エネルギー管理指定工場に指定され、自主的に CO₂ 削減計画を策定し、CO₂ 削減に取り組んでいます。

オフィスにおいては例年どおり夏期には「ノーネクタイ」「ノー上着」活動とともに、冷房設定温度を上げる「クールビズ」運動を、冬期には暖房設定温度を 20℃ 以下に保つ「ウォームビズ」運動を展開しています。



CO₂ の吸収活動（植林活動）の推進

「森の中の緑の工房」竜洋工場

当社は、1980 年に「森の中の緑の工房」を目指し竜洋工場を建設しました。工場周辺や構内へ当初約 20,000 本の苗木を植え、その後も継続して植林を行い、現在までに約 26,000 本の規模となっています。30 年の歳月を経て工場周辺の木々は、大きな樹木に生長し、「森の中の緑の工房」の名に相応しい工場となりました。この活動が評価され、2005 年緑化優良工場として（財）日本緑化センター会長奨励賞を受賞致しました。



海外植林活動

2007 年より、海外生産拠点のあるインドネシアにおいて、CO₂ 吸収源の確保、木材が伐採された土地に森林を再生すること、また将来の木材資源の育成を目指してカワイグループ社員の寄付による「カワイの森」植林活動を行っております。5 年間（5 次植林）で 250ha、20 万本を植樹する計画です。

2010 年度はインドネシアでの長雨のため計画していた第 4 次植林を行なうことができませんでしたが、これまでの植林活動により 125ha の土地（東京ドーム約 27 個分）に 84,000 本の苗木が成長を続けています。

インドネシアの「カワイの森」が完成すると、当社試算では年間 3,667 トンの CO₂ を吸収できると見込んでいます。

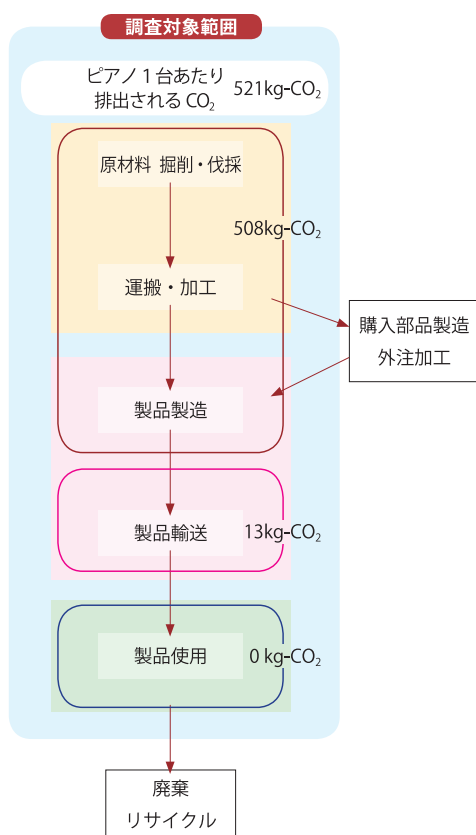


「カワイの森」植林活動

主な製品の環境負荷の評価と環境マネジメントシステムの導入

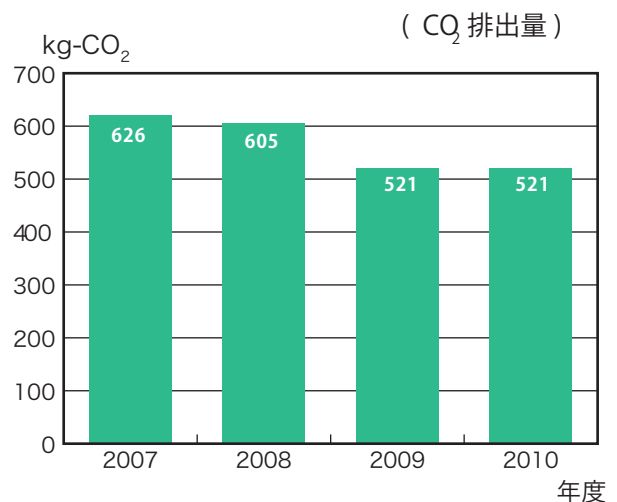
主な製品の LCA(ライフサイクルアセスメント) の調査

製品をつくるための資源の採取から部品、製品を作る過程で排出される CO₂ 量及び製品を使用し、廃棄されるまでに CO₂ をどのくらい排出するのかの調査を当社の主な製品のグランドピアノ (RX- 3) について行なった結果、次のとおりとなりました。



ピアノは、一般の電化製品、自動車と異なり製品の使用時に排出される CO₂ はありません。また、製品寿命は一般的に数十年と長く、製造までの CO₂ 排出量が製品寿命の総 CO₂ 排出量と考えることが出来ます。

グランドピアノ RX-3 の LCA 結果



エコアクション 21 の取り組み

カワイ精密金属(株)では、環境マネジメントシステムの導入を目指して平成 23 年 1 月 6 日(木)の始業式でエコアクション 21 の取り組みのキックオフを行いました。新しく定めた環境方針・環境目標に沿った活動に取り組み、平成 23 年度中の認証取得を目指しています。

LCA : Life Cycle Assessment の略。製品の原材料の調達から製造、輸送、使用、廃棄までのライフサイクル全体を通して、環境に及ぼす各種の環境負荷を定量的に評価する手法

LCA 評価方法

* LCA 算定には、社団法人 産業環境管理協会のライフサイクルアセスメント実施ソフト「JEMAI-LCA Pro」を用いました。

*製品の廃棄について

ピアノの寿命は数十年のため算出から除外しました。

*購入部品及び外注先での加工製造・輸送については含まれていません。

*製品輸送は磐田市(竜洋工場)→東京間を用いています。



「エコアクション 21」キックオフ (カワイ精密金属(株))

資源循環型社会のための活動を行っています

廃棄物削減・再資源化

廃棄物削減の取り組み

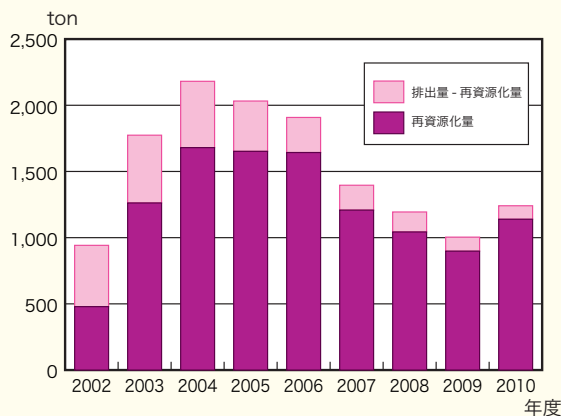
廃棄物の削減と徹底した分別回収による再資源化を図ることが重要な使命と認識し、活動しています。

2003 年度には、大気汚染の防止やダイオキシン対策特別措置法の順守を目的に木屑ボイラーを廃止したため、それまで燃料としてサーマルリサイクルされていた木屑や木粉が廃棄物扱いとなったことにより、廃棄物排出量が大幅に増加しました。

その後、廃棄物の削減に取り組んできた結果、2010 年度は竜洋工場への部品工程移設導入のため 2009 年度に比較して増加していますが、再資源化率は 91%と向上させることができました。

木屑等は全て再資源化（製紙原料、ボード原料、堆肥用、燃料用 他）しており、その他のフェルトなどは堆肥化するなど環境負荷の低減に役立つよう再資源化の取り組みを行なっています。

廃棄物排出量と再資源化量



	年度	2006	2007	2008	2009	2010
排出量	ton	1,902	1,396	1,194	1,004	1,139
再資源化量	ton	1,641	1,208	1,043	898	1,037
再資源化率	%	86%	87%	87%	89%	91%

リサイクル・リユースの取組

生産者拡大責任を踏まえて、循環型社会のためのピアノの再生利用を推進するために（株）ピアノリサイクルを 1998 年に設立しました。現在では当社竜洋工場仕上課が本事業を担当しています。

メーカーによるピアノ再生

メーカーだから出来る仕事があります。ピアノづくりに精通した経験豊かな専任技術者が、古いピアノでも全面オーバーホールすることが可能です。

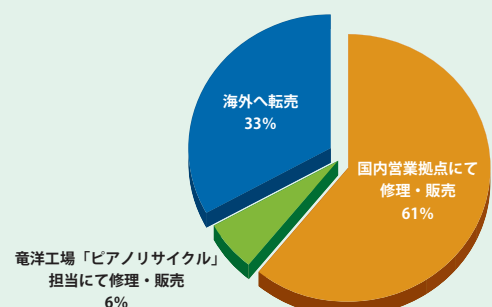
弦・ハンマー・アクションの交換から全面塗装までお客様のニーズに応じたピアノ再生を行っています。再生は、ピアノづくり 80 年を超える当社製造部門で 40 年以上経験をもち、塗装技術、木工技術、調律技術など、その道の専門家がそれぞれ担当しています。その仕上がりは、多くのお客様から喜ばれています。また、カワイピアノなら純正パーツによる修理・再生も可能で、これも大きな魅力となっています。



日本国内では各営業拠点においても、下取りしたピアノを再生し、新たなお客様のもとへお届けしています。

2010 年度には約 1,500 台のピアノが再生・リユースされました。そのうち約 3 割が輸出され世界の各地で使われています。

ピアノにおけるリサイクル・リユースの取組み状況
(2010 年度)



持続可能な原材料・資源の調達を推進しています

グリーン調達

当社では必要な資源の調達・購入に際して、当社の定める地球環境委員会環境方針に基づき、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達・購入する『グリーン調達』にグループ全体で積極的に取り組んでいます。



グリーン購入法やグリーン購入ネットワーク（GPN）の基本原則に準じたグリーン調達を推進し、環境負荷を総合的に低減し、生物多様性の保全や循環型社会構築に積極的かつ継続的に貢献するよう活動しています。

次のようなライフサイクルにおける環境への配慮に関する事項を調達基準として考慮しています。

- ・ 環境汚染物質への配慮 / 省資源 / 省エネルギー
- ・ 天然資源への配慮 / 長期使用性 / リユース可能性
- ・ リサイクル可能性 / 再生材料等の利用
- ・ 処理処分の容易性

またサプライヤー選定時の配慮事項も次のように定め、購買部門よりお取引先に対処をお願いしています。

- ・ 環境マネジメントシステムを構築し運用していること
- ・ 省資源、省エネ、化学物質管理、グリーン購入等への取組がなされていること
- ・ 梱包材についても環境に配慮していること
- ・ 環境情報を積極的に公開していること

グリーン調達に関しては、このほかに調達基本方針や適用範囲、調達基準ガイドライン等を定めています。

またこのガイドラインに基づいて文具類等の調達ガイドラインも別に策定しています。

木材調達

ピアノの心臓部ともいわれる響板には厳選されたアラスカのスプルースが使われます。樹齢 150 ～ 400 年、高さが 60m にも達する針葉樹の大木です。ピアノの響板には地上 6 ～ 20m の部分で木目がまっすぐかつ「ふし」のない部分しか使えません。

高品質、貴重な木材を多く使用する楽器メーカーとして、木材を生み出す森林の保全、保護、育成は特に重要と考え生物多様性の保全に配慮して木材のグリーン調達に取り組んでいます。

木材調達ガイドライン（2006 年 6 月開示）

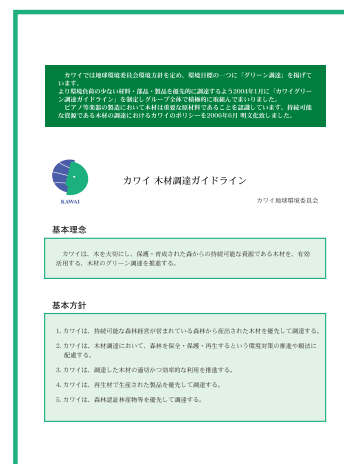
2006 年に持続可能な資源である木材の調達におけるカワイのポリシーを明文化しました。

基本理念

カワイは、木を大切にし、保護・育成された森からの持続可能な資源である木材を、有効活用する、木材のグリーン調達を推進する。

基本方針

1. カワイは、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出された木材を優先して調達する。
2. カワイは、木材調達において、森林を保全・保護・再生するという環境対策の推進や順法に配慮する。
3. カワイは、調達した木材の適切かつ効率的な利用を推進する。
4. カワイは、再生材で生産された製品を優先して調達する。
5. カワイは、森林認証林産物を優先して調達する。



響板の材料となる
アラスカスプルース
(樹齢 250 ～ 260 年)



“ANYTIME” いつでもピアノを楽しむために

環境配慮型製品

消音型グランドピアノ “ANYTIME(エニタイム)X”

生活スタイルが多様化し、早朝や夜間の時間帯を有益に過ごす方が増えてきました。一方、自分の演奏を録音して聴いてみたい…デジタルピアノのようにいろいろな音色で演奏してみたい…というように、音楽や楽器の楽しみ方も多様化しています。

ANYTIME シリーズは、夜間など音を出せないときに、デジタル音源に切り替えて、ヘッドホンで演奏を楽しむことができる環境配慮型アコースティックピアノです。

グランドピアノ“ANYTIME X”では、ハンマーの動きを検出する新センサー「インテグレートッドハンマーセンシングシステム」をグランドピアノ用に新開発し、消音時においても、通常時と変わらない鍵盤のタッチ感を実現しました。

ー グランドピアノ “ANYTIME X” の特徴 ー

- 1) グランドピアノ用に新開発した「インテグレートッドハンマーセンシングシステム」採用
- 2) グランドピアノにふさわしい、高品位デジタル音源
- 3) ヘッドホンなしで、電子音の再生・音量調節が可能な「響板スピーカーシステム」搭載 (ATX-f)
- 4) 操作性・視認性に優れた「スライド式スイッチパネル」採用
- 5) 音色数 22、最大同時発音数 192 音、レコーダー機能強化などデジタル音源の特性を生かした機能も充実



アップライトピアノ消音ユニット ATX-1f/ATX-1

カワイ消音ユニットは、お手持ちのアップライトピアノを消音ピアノ ANYTIME X シリーズに変身させる後付けキットです。

ATX-1fには響板スピーカーを搭載

響板スピーカーとはその名のとおりピアノの響板を利用したスピーカーです。一般的な消音ピアノは、ヘッドホンを使用するか、外部スピーカーを用いてデジタル音を再生しますが、消音ユニット ATX-1f ではお手持ちのピアノの響板を振動させることにより、アコースティックピアノに近い音の響きや音場感、実際に張られている弦の共鳴効果が得られますので、より自然な「鳴り」を体験することができます。



響板スピーカーシステム

ATX-1f なら、ヘッドホンが苦手な方でも周囲に配慮した小音量で自然なピアノ演奏を楽しんでいただけます。

また、アコースティックピアノの音にデジタル音源による音を加えることが可能になるため、今までにない新鮮な演奏を体験することができます。

さらに響板スピーカーによりアコースティックピアノに近い「鳴り」で内蔵デモ曲を再生できますから、「ピアノ演奏を聴いている」という感覚でデモ曲を楽しむこともできます。

より良い音環境を楽しむために

カワイ防音ルーム「ナサール」

オーダータイプ『フリープラン』『ルームプラン』を追加

カワイ防音ルーム「ナサール」は、音響性能と居住性の両立を図った、より良い音環境を楽しむ空間として、楽器用防音室にとどまらず書斎や AV ルームとしても、ご利用いただいています。

防音リフォームからサロンホールまで、理想の防音・音響をコーディネートする『フリープラン』、自由設計のオーダータイプとして一戸建てからマンションまで安心の音空間をお届けする『ルームプラン』の2つのプランを追加しました。

◆フリープラン

(1) お手軽プラン

お客様のご予算に合わせた防音リフォームプラン。お客様の使用目的に応じた最適な音環境をご提案します。

(2) 夢実現プラン

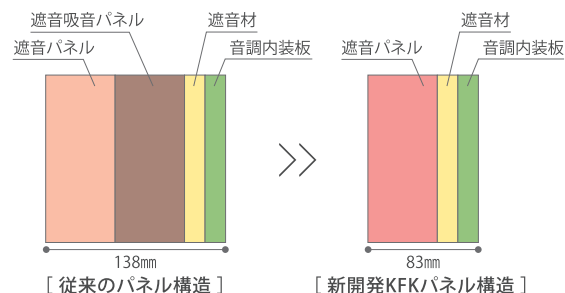
音楽サロンホール、音楽スタジオといったお客様の夢を実現するプラン。

また、建築会社とのコラボレーションで防音室の設計、施工をすることも可能です。

◆ルームプラン

(1) 高遮音タイプの軽量化を実現

新開発の KFK(軽量・複合・高遮音) パネルにより、高遮音タイプ (Dr-40) の軽量化を実現しました。遮音壁の厚さが従来より 40% 薄くなり、6 畳サイズで 25% 軽くなったため、マンションなど重量制限のある場所への設置の可能性が大幅に広がりました。



(2) 音調内装板がさらに進化

カワイ独自の吸音加工技術 (KMP 加工*) によって、吸音特性の異なる音調内装板が製作可能です。

*カワイ・マイクロ・パンチング加工



企業活動による環境負荷を数値で把握することが環境活動の第一歩と考えています

環境パフォーマンス

マテリアルバランス

カワイでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を把握し、その及ぼす影響を軽減するために開発・設計・調達・製造から輸送、さらにお客様が製品を使用・リサイクル・廃棄に至るまでの各段階でどれくらいの資源・エネルギーを使用しているか、またどのような環境負荷が発生しているかについてデータ集計を行なっております。2010年度におけるエネルギー、化学物質、資源などの投入量とCO₂、排水、化学物質、廃棄物などの排出量は、下記のとおりです。

今後もデータ把握の対象を広げ環境負荷の低減に取り組みます。

INPUT

エネルギー (GJ)	
総 計	207,412
電力	176,902
A重油	29,829
LPG	354
灯油	327

水 (千m ³)	
総 計	164
井水	92
水道水	14
工業用水	58

化学物質 (ton)	
	148

燃料 (GJ)	
ガソリン	944
軽油	3,278

容器包装 (kg)	
紙	5,512
プラスチック	6,912

エネルギー (GJ)	
電力	0
ピアノの演奏は人力のため、使用段階でのエネルギーは0と評価しました。また、電子ピアノ・オルガンについては演奏時間等の設定が困難なため、対象から外しました。	



OUTPUT

温室効果ガス (ton-CO ₂)	
CO ₂	12,004

排水 (千m ³)	
	131

化学物質 (ton)	
排出量	86
移動量	3

廃棄物 (ton)	
総排出量	1,148
焼却・埋立	113
再資源化	1,035

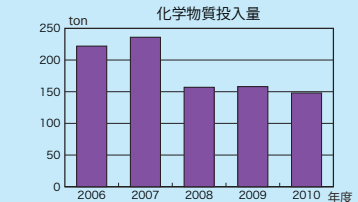
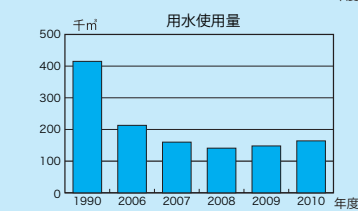
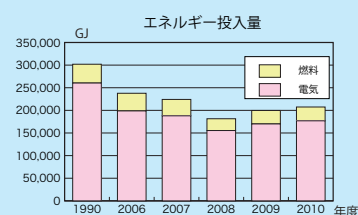
温室効果ガス (ton-CO ₂)	
CO ₂	389

容器包装 (kg)	
	1,475

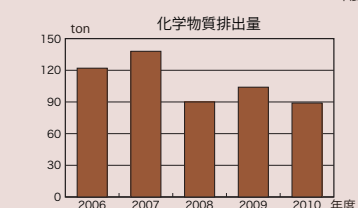
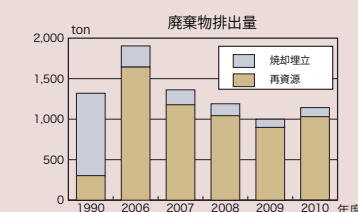
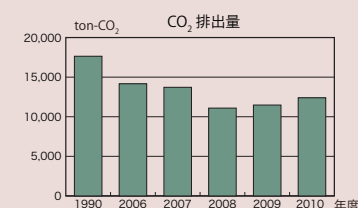
温室効果ガス (ton-CO ₂)	
CO ₂	0

アコースティックピアノの使用段階における排出は0と推定しました。また、電子楽器についてはINPUT同様の考えから対象から外しました。

INPUT



OUTPUT



経営計画

第3次中期経営計画では、長期的に会社のめざす方向性を明確にし、将来を見据えた事業基盤づくりを行うとともに持続的成長のための構造改革に取り組んでまいります。

1. 計画期間

2010年4月1日～2013年3月31日

2. 長期ビジョン

- ・限りある資源を有効活用し、地球にやさしいものづくりをめざす
- ・幼児から高齢者まで、心の豊かさや体の健康づくりを支援
- ・グローバルブランドの確立をめざす

3. 基本方針

- (1) 成長市場へ向けたチャレンジ
 - ・成長する中国市場に対し、当社総合力を発揮
 - ・高齢化社会に向けた健康増進事業の拡大
 - ・自動車C/V/T向け金属加工など環境対策関連部品加工の拡大
- (2) 基盤事業の構造改革による収益性向上
 - ・楽器国内販売の構造改革
 - ・楽器生産体制の全体最適化
 - ・教育ソフトの充実と、教育・サービス事業の効率化

4. 7つの重点戦略

当計画を遂行するため、下記7項目について重点的に取り組んでまいります。

- (1) グローバルブランドの確立

高付加価値モデルを世界市場で拡販し、ブランド力向上のための基盤を整備。

 - ① Shigeru Kawai シリーズの拡販
 - ② ピアノづくりの将来を見据えた生産・開発体制を整備
- (2) 中国市場で総合力を発揮

成長が続く中国市場で、需要創造から生産、販売、サービス体制の強化を図る。

 - ① 強いブランド力を背景に、学校販売を強化
 - ② 普及価格帯モデルを増やし、幅広い層へ拡販
 - ③ 都市部を中心に音楽教室展開を加速
 - ④ アフターサービス体制の充実を図る
- (3) 国内市場の効率的販売体制構築

都市部へ資源を集中し、市場縮小に対応した販売体制を構築。

 - ① 店舗を核とした販売活動を展開
 - ② 音楽教室との相乗効果を生かした販売の効率化
 - ③ IT (CRM・インターネット等) の効果的活用を図る

(4) ピアノ世界販売の拡大

市場別販売・製品戦略を策定し、ピアノ販売の拡大をめざす。

- ① 成熟市場での販売量回復
- ② 成長市場での量的拡大
- ③ 新興市場の開拓強化

(5) さらに魅力ある音楽教室をめざす

都市部人口集中エリアへ音楽教室を新設し、生徒数を増加。

- ① 都市部を中心とした教室新設
- ② 魅力ある音楽教育システムの構築

(6) 全年齢の健康づくり支援事業拡大

全年齢層に向けた健康増進事業を、全国市町村を対象に推進。

- ① 介護予防事業の拡大
- ② 特定保健指導事業の推進
- ③ カワイ体育教室のコース新設・拡充

(7) 金属事業の生産体制強化

市場拡大が見込める環境関連部品金属加工の生産体制をさらに強化。

- ① 浜松新工場の投資効果を発揮
- ② QCDの向上により、技術競争力を確保
- ③ 半導体・自動車に次ぐ第3の柱を構築

(単位：百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期
売上高	59,000	62,000	64,000
営業利益	1,700	2,300	2,500
経常利益	1,500	2,100	2,400
当期純利益	800	1,000	1,200

第3次中期経営計画の説明資料は下記の画像をクリックすることでご覧いただけます。





継続的に企業価値を高めていくにはコーポレートガバナンスの充実が最も重要な経営課題と捉えています

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの状況

当社は継続的に企業価値を高めていくうえで、コーポレート・ガバナンスの充実が最も重要な経営課題であると捉え、その取組のためには株主・投資家の皆様、お客様、取引先、地域社会、従業員等の当社を取り巻く様々なステークホルダーから信頼される経営姿勢が重要であると考えています。

その実現に向け、当社では株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの法律上の機能に加え、経営体制の改革、コンプライアンス体制や内部統制システムの整備等の様々な方策を実現させるとともにタイムリーな情報開示により公正で透明性の高い経営体制の実現を目指しています。

コンプライアンスの推進

コンプライアンスとは法令等順守と訳され、社会の法令や会社内の規程などを守っていくことだけでなく、社会規範を含んだ倫理規範の実践により社会の信頼を得ていく事が必要であると考えられています。

このようなことから当社グループでは全従業員が取り組む、コンプライアンス経営を推進しております。

具体的には法令順守に加え社会的な規範を包含したカワイ倫理規範、倫理行動規準を制定するとともに、外部有識者（弁護士）を加えた企業倫理委員会を設置しております。

また、企業倫理に関する統括部門である企業倫理室を主体に、企業倫理ホットラインの運営と従業員への教育、啓蒙によるコンプライアンス意識の向上に努めております。

内部統制システム整備の状況

2006年5月に取締役会にて「内部統制システムの構築に関する基本方針」を決議し、内部統制システムの整備を推進しています。

当社は内部統制の基本を職務分掌、職務権限、業務プロセス、その他の各種規程・基準においています。内部監査部門は業務執行部門ならびに関係会社の監査を通じてこれらの基本に則って業務が遂行されていることを確認し、改善すべき点の指摘を行っています。

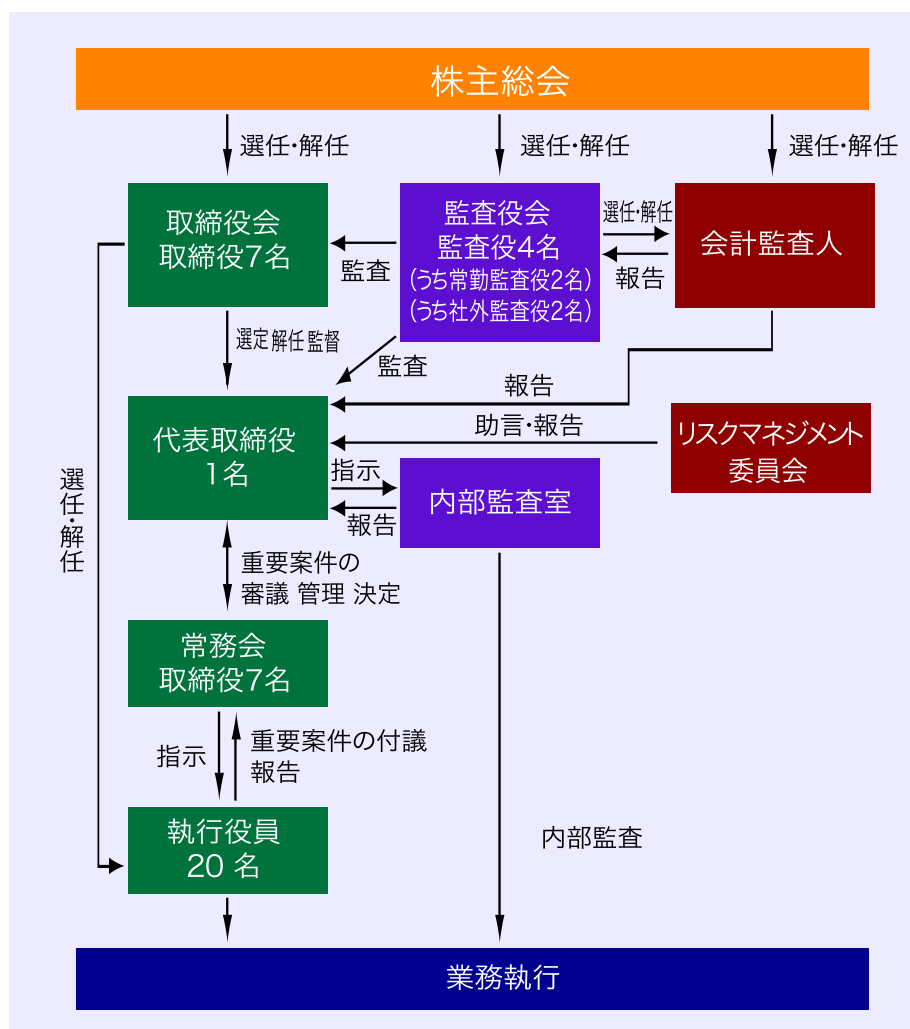
また、法律問題については、分野ごとに恒常的に法律事務所と顧問契約を締結した上で適法性の確保に努めています。

反社会的勢力排除に向けて

反社会的勢力を社会から排除していくことは、治安対策上重要なことであり、企業にとっても社会的責任の観点から必要であり、また、反社会的勢力が従業員を含めた企業自身に多大な被害を生じさせるものであることから、企業防衛の観点からも必要です。

このような観点から、当社は反社会的勢力による被害を防止するためのコンプライアンス体制及び内部統制システムの整備にも努めています。

コンプライアンス体制・内部統制システム



- ・取締役会：7名で構成（社外取締役は0）
- ・監査役会：社外監査役2名を含む4名で構成
- ・2002年4月より執行役員制度を採用（現在20名）
- ・2005年6月より執行役員制度を改編し、取締役にも執行役員を兼務させる体制とし、全社的課題への対応力の強化を図るとともに、業務執行における責任の明確化および指揮命令系統の充実を図りました。
- ・経営会議体として全社的課題を審議するステアリング・コミッティ、戦略課題を全社的見地で審議する全社戦略会議等を設置して戦略モニタリング・コントロール機能を確認しています。
- ・内部監査：「内部監査室」を設置し、当社グループの業務活動全般に関して、業務執行が適法、適正かつ合理的に行われているかどうかを監査するとともに、会社資源の活用状況、法令・社内規程の順守状況についての監査を行っています。

リスク管理体制

当社のリスク管理体制は、業務執行に伴うリスクを未然に防止することを第一とし、リスクが顕在化した場合には、社会的、経営的な影響を最小限にとどめるため、職制により組織的に対応するものから必要に応じグループ全体を対象とした委員会等を設置するなど、機動的な対応に努めております。

リスクマネジメント委員会は、当社グループ全体のリスクへの対応のために、規程類の整備、運用状況の確認、要員の訓練、研修等を企画実行するとともに全社リスク管理状況を定期的に代表取締役役に報告しております。傘下に下記分野別の各委員会を設置するとともに、不測の事態が発生した場合には、「緊急対策本部」をただちに設置し、迅速な対応と損害の拡大の防止にあたるものとしております。

なお、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に際しては、当社取締役を委員長とした「緊急災害対策本部」をただちに設置し、被害状況及び震災の影響の把握に努めました。現在は「災害復興特別委員会」として被害の最小化及び復興施策の立案・実行を行っており、今後も必要に応じて追加の施策を行ってまいります。

リスクマネジメント委員会

地球環境委員会

カワイグループは1994年に地球環境委員会を設置し、地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。地球環境委員会ではカワイ地球環境憲章、カワイ環境方針、グリーン調達ガイドライン、木材調達ガイドライン等を制定。また環境に関する法令の順守はもとより環境保全の目的・目標を定め環境汚染によるリスクの軽減に努めています。

海外安全対策委員会

海外子会社、海外駐在員並びに海外出張者のリスク管理を行っています。

中央防災対策委員会

カワイグループにおける火災、風水害、その他の災害の予防対策確立及び災害発生時の被害を最小限に止めるための諸活動を行っています。

中央安全衛生委員会

カワイグループの従業員の安全衛生意識の高揚を図り、災害及び疾病を予防するための諸活動を行っています。

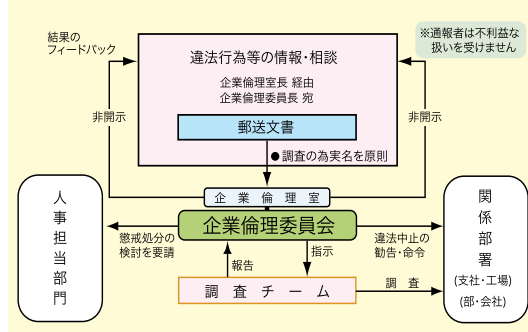
情報セキュリティ委員会

情報資産の機密性、完全性、可用性の確保、維持を全社的な立場で統括管理しています。

企業倫理委員会

コンプライアンス経営を推進するため、法令順守に加え社会的な規範をも包含したコンプライアンス要綱（カワイ倫理規範、倫理行動規準を含む）を制定するとともに弁護士等外部有識者を加えた企業倫理委員会を設置しています。また企業倫理に関する統括部門である企業倫理室を主体に、企業倫理ホットラインの運営と従業員への教育、啓蒙によるコンプライアンス意識の向上に努めています。

企業倫理委員会・企業倫理ホットラインの流れ



製品安全対策委員会

万が一、市場に出た当社の製品に安全上の不具合があり、それが原因でお客様の生命身体に危害が及んだり、その可能性があるかと判断されるときに、お客様への告知、行政機関への報告、製品の回収といった対策を迅速に実行し、お客様への被害を最小限に止める諸活動を行っています。

株主・投資家の皆様へのIR活動に取り組んでいます

株主・投資家の皆様とともに

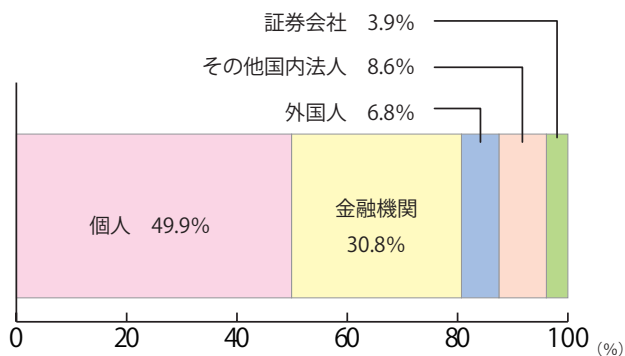
決算説明会

2011年5月24日、東京日本証券アナリスト協会にて、機関投資家・アナリスト向けの決算説明会を開催いたしました。連結業績の概要を説明するとともに、2010年4月より始まっている第3次中期経営計画の進捗についての説明を行い、当社の事業展開について、ご理解いただきました。

同説明会で使用した資料は、ホームページにて公開しております。下記画像をクリックしてご覧ください。



株式の所有者別状況 (2011年3月31日現在)



株式の発行状況

発行可能株式総数	普通株式	342百万株
発行済株式総数	普通株式	86百万株
株主総数	普通株式	9,983名

定時株主総会

2011年6月29日、当社本社にて第84期定時株主総会を開催いたしました。2009年より、事業報告において、プロジェクトとナレーションによる説明を採用し、グラフや写真を使ってわかりやすくご覧いただけるようにいたしました。

当日お越しいただいた株主の皆様より活発にご意見ご質問をいただき、当社の業績や事業展開について、より深くご理解いただきました。

事業報告書

株主の皆様には、事業報告書を年2回お送りしています。直近の財務情報に加え、トップのコミットメントや当期のトピックス、会社概況などをお伝えしています。



IR サイト

IR: Investor Relations の略。企業による投資家向けの情報提供などの広報活動。

ステークホルダーの皆様にかわいの経営戦略や財務内容を開示し適切な企業価値へと結びつける活動（IR活動）の手段として当社ホームページにIRサイトを開設しています。 (<http://www.kawai.co.jp/ir/>)



音楽文化の担い手として自信と誇りを持って行動します

お客様との関係

文化貢献活動

音楽を通して広がる豊かで潤いのある社会を目指して、また、日本の音楽文化を育てるため、カワイは、さまざまな音楽活動や文化活動への支援を行っています。人々の心に感動の輪を広げたい。カワイの願いは着実に実を結んでいます。

カワイ音楽振興会

日本の音楽文化の向上をめざして、1963年に設立。海外の著名演奏家、音楽教育家を招聘し、リサイタルを行っています。また、公開講座、個人レッスンなど多彩な催しを企画実施し、音楽教育のあるべき姿を求める活動を行っています。これからも“Music for All”すべての人々に良質な音楽を提供してまいります。
<http://kawai-kmf.com/>

カワイコンサート

1971年に日本中の人々に良い音楽をというポリシーのもとスタートしたカワイコンサート。発足以来、全国で2,154回（2011年3月末）の公演を行っています。国際的なピアニストから新進気鋭の若手演奏家まで多彩な演奏家を招いて、全国各地の皆さんに良い音楽との触れ合いを楽しんでいただいています。[カワイ音楽振興会サイト](#)からご参照ください。

◆カワイ・サロンコンサート in 表参道

ケヤキ並木を望むカワイ表参道のコンサートサロン「パウゼ」において、カワイ音楽振興会主催で、若手ピアニスト、演奏家によるサロンコンサートを年間80回以上開催しております。



ヨーロッパ・カワイコンサート

1976年設立のカワイドイチュランド GmbH を経て、1979年に設立されたカワイヨーロッパ GmbH は、1990年にクレフェルト市に移転して以来、欧州における当社の重要な拠点になっています。

1991年に始まったヨーロッパ・カワイコンサートは同市のクレフェルト市カンパス（ホール）で行われています。これまで200回以上のコンサートを開催しております。また、著名ピアニストを招聘してピアノマスタークラスを主催するなど、様々な文化事業を行ってきました。

さらに、浜松市とクレフェルト市との文化交流においても支援を行っております。



日本ショパン協会への支援

ショパン生誕150年にあたる1960年、ポーランドのショパン協会との交流のもとに設立。音楽交流、ショパン国際ピアノコンクールへの審査員派遣、参加者オーディションなどの活動を行ってきました。2005年には「ショパンピアノコンクール」を開催。また年間最も優れたショパン作品を演奏したピアニストに対し「日本ショパン協会賞」を贈呈。毎年数回、ショパン作品を中心としたリサイタル・講座を開催しています。

<http://chopin-society-japan.com/>

クロイツァー記念会への支援

世界的ピアニストとして日本の音楽界に多大な貢献をした、故レオニード・クロイツァー教授の遺徳をしのぶ門下生および関係者により1962年設立。日本のピアノ音楽界発展のために尽くす設立主旨に沿って諸事業を行っています。1971年より、クロイツァー教授の功績を記念して「クロイツァー賞」を制定。教授が生前教鞭をとった東京芸術大学、国立音楽大学のほか、ゆかりの深かった武蔵野音楽大学大学院ピアノ専攻修了生の中から、特に優れた成績をおさめた人に賞金を贈呈。1976年より「クロイツァー賞受賞者演奏会」を毎年開催の他、特別演奏会や出版活動を行なっています。

日本・ロシア音楽家協会への支援

1984年、日ソ音楽家協会の名で、当時のソ連作曲家同盟議長のティホン・フレンニコフ氏と初代運営委員長故芥川也寸志氏の親交から、両国の音楽作品の交換演奏を中心とする音楽文化交流を目的に発足。その後ソ連が崩壊し、ロシアを中心とする独立国家共同体（CIS）が誕生したことにより「日本・ロシア音楽家協会」と名称を変更。新生ロシアと旧ソ連邦諸国との新たな交流活動に入る。とくに1998年からは「サウンド・ルート」の名称で、新たなロシアとの文化交流コンサートを再開。同時に、声楽・器楽のコンサートや公開レッスン、公開講座、シンポジウムなど開催しています。
<http://japan-russia-sfm.net/>

日本フーゴー・ヴォルフ協会への支援

ドイツ歌曲の偉大な作曲家フーゴー・ヴォルフの作品をより多くの音楽ファンに知ってもらうため、1963年に設立。例会・研究会活動のほか、ヴォルフに関する資料・楽譜の収集、公開などに積極的に取り組んでいます。

日本シマノフスキ協会への支援

シマノフスキは、ショパンとともにポーランドを代表する作曲家。1981年、カール・シマノフスキ生誕100年を記念して設立。ポーランド人の民族性、土俗性が表現された深い味わいのシマノフスキ作品。この作品を日本国内に広める活動を行っています。オーディション形式のフレッシュ・コンサートや、公開講座、例会等のコンサートを開催しています。
<http://kawai-kmf.com/szymanowski/>

心とからだのハーモニーをモットーに 全年齢層の健康づくりをサポートします

カワイ健康づくりシステム

少子高齢化・人口減少時代を迎え、健康づくりの重要性はますます高まっています。

カワイ体育教室開設以来44年のキャリアを持つカワイならではのノウハウにより、子どもから、大人・高齢者までそれぞれのステージに合わせた健康づくりをサポートします。



体育コース

幼児から児童を対象に、自ら進んで運動に取り組み、運動する楽しさと能力を身につけるコースです。

運動あそび活動を通して子どもの、心とからだの調和をはかり、豊かな人生を歩む基礎を育てます。そのために、走ったり、跳んだり、器具を操作したりなど偏りのない運動を体験します。



スポーツコース

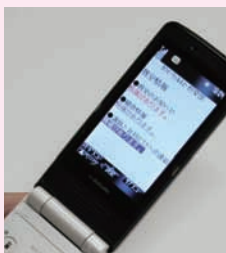
器械体操・新体操・サッカーなどスポーツの基礎を身につけるコースです。

技術を身につけられるよう一人ひとりの能力や、からだの発達と発育を考慮した指導を行っています。



<新システム>カワイネットシステム

体育教室とご家庭をモバイルを使ってリアルタイムに結び、「危機管理体制の充実」「運動の習慣化（生徒の日常の運動をサポート）」「家族の健康づくり」を実現しました。



特定保健指導の支援

厚生労働省が医療費対策として特定保健指導を義務化する中で、提示した進め方の指針に沿った支援内容となっています。

特定保健指導の対象は40歳～74歳ですが、カワイは若年者のメタボ対策も指導します。

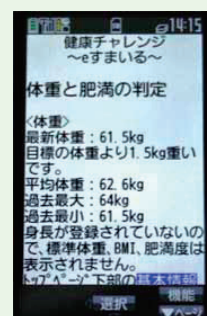
介護予防事業の支援

厚生労働省の指針に沿って運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能の向上をトータルで支援します。

介護保険法の改訂に伴い多くの市町村で地域支援事業として介護予防への取組みが強化されています。カワイは一般高齢者や特定高齢者を対象とした介護予防事業の支援をいたします。

モバイルヘルスアップツール <機能を強化しました>

携帯電話やパソコンの「双方向性機能」「情報処理機能」を使ってウォーキングや健康管理を快適にサポートします。日常の健康づくりを支援しメタボリックシンドロームの改善に最適です。



地域社会の発展と環境の向上に役立つ活動を積極的に推進しています

コミュニケーション

地域社会との共生

カワイグループでは、それぞれの事業所において積極的に地域社会の発展と環境の向上を目指して、地域社会への貢献活動と交流活動を行っています。

工場見学の受入

地域の小学生・中学生・高校生や次世代の音楽文化を担う学生さんたち、その他多くの皆様にカワイピアノに親しんでいただくために竜洋工場では工場見学を受入れております。カワイピアノが完成するまでの組立から仕上げの工程をご覧くださいことができます。

また、竜洋工場内のピアノ歴史資料室には復元した歴史的な楽器が展示されており、実際に弾いてその当時の音色を楽しむこともできます。

2010 年度の見学者数は、3,329 名でした。小学生をはじめ、多くの方々から見学後にあたたかい感想文のつづりを送っていただきました。



環境美化・保全活動

地域社会とのつながりを大切にしたいと考え、環境方針に基づいた環境活動として敷地内のみならず、工場周辺の主要道路の清掃活動などを通じて地域の美化・環境保全に積極的に取り組んでいます。



竜洋工場周辺の清掃活動

カワイ精密金属浜松工場
の清掃活動の様子



エコキャップ収集運動

当社では 2008 年よりエコキャップ収集運動を行っています。この運動は、ボトルキャップを焼却処分する際に発生する大量の CO₂ を削減できるばかりでなく、リサイクルでの換金により世界の子供たちにポリオワクチンとして提供することができます。2011 年 4 月 4 日までの回収で、累計排出 CO₂ 削減量は 929kg、ワクチンは 148 人分となりました。



ボトルキャップの回収をしているショッピングセンターへお渡ししました。

各サイトそれぞれにおいて、地域社会へ参画しています

カワイの森を通じた活動

「カワイの森」は、インドネシアの現地法人・カワイインドネシア、インドネシア森林公社 (Perum Perhutani) およびマルガサルユ森林村市民組織と協働で植林活動が行われ、管理されています。

植林する場所は、インドネシア ジャワ島のカラワン県ストウルクジャンベ郡マルガカユ村の丘陵地です。

2010 年度に第4次植林を実施する計画でしたが、雨季が異常に長引き、植林をするタイミングがありませんでした。また、長雨のために第3次植林の育成率が悪く、森林公社により 30,000 本の再植林を実施しました。その結果、現在 125ha の土地に 84,000 本の木々が育っています。

2011 年度は、順延した分も含め第4次植林として、100ha に 97,000 本を植栽する予定です。



2007 年 12 月植林当初



2011 年 4 月 木の直径約 22cm



第4次植林契約と植林予定地視察



地域との交流

(株)カワイハイパーウッドでは毎年、地元住民の方をお招きし、工場で生産している商品を紹介するとともに工場内の特設会場でコンサートを開催しています。

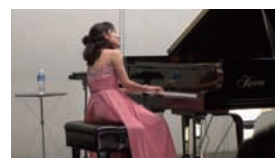


2010 年度は 11 月 21 日(日)に開催され、第1部では浜松市出身で数々の国際ピアノコンクールで第1位を受賞している鳥山明日香さんをお招きし、ラフマニノフの曲などを間近で聴くことができました。第2部ではカワイOBで結成したジャズバンドの演奏、さらに第3部では地元の中郡中学校ブラスバンド部1、2年生に演奏をお願いし、音楽を通じた交流ができました。

当日は「カワイの森」植林活動への募金を募り、10万円の寄付金が集まり、カワイの森育成会に寄贈されました。



浜松市立中郡中学校ブラスバンド部の皆さん



鳥山明日香さん



「カワイの森」育成会へ寄付

お客様に愛され、親しまれるカワイを目指して

情報発信

CS（顧客満足）への取り組み

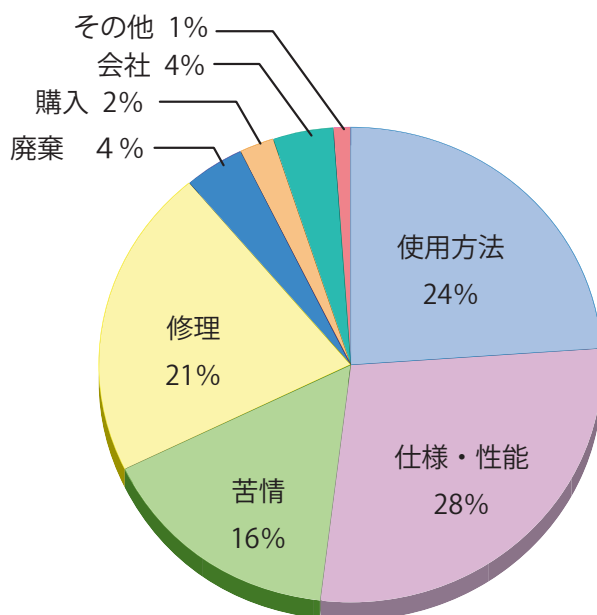
楽器購入前のご相談、購入後の楽器のご使用方法に関するご相談等、お客様から寄せられる様々なご質問に誠実で迅速な対応を行うべく、お客様相談室で受付を行っております。現在、お客様相談室は生産統括部CS環境室に籍を置き、音楽を愛する専門スタッフが皆様にとってかけがえのないパートナーを目指してサービスに努めております。

お客様相談室 TEL：053-457-1311

受付時間：

月曜日から金曜日までの 9:00～12:00、13:00～17:00

お問い合わせ内容による分類（2010年度）



アフターサービスの実施

「ピアノは生きています」というと驚かれるでしょうが、ピアノには木材・羊毛・皮革など多くの天然素材が使われています。これらの材料はとても敏感で、温度や湿度の影響をまともに受けてしまうのです。ピアノの大部分を占める木材やハンマーのフェルトは常に呼吸をしている、まさに“生命体”であり、ピアノは大変デリケートなメカニズムを持つ楽器でもあります。

そこで私達が健康管理をするようにピアノにも“調律”という名のメディカルチェックが必要なのです。

カワイの調律師たちは厳しい訓練を受けた技術者で、ピアノの主治医として、ピアノを常にベストコンディションに保つためのケアをしています。

調律サービス部 TEL：053-457-1256

ピアノメンテナンスを通じた社会貢献

カワイは、ピアノの調律の啓発や技術の向上を目的とした団体である（社）日本ピアノ調律師協会（通称ニッピ）の主旨に賛同し、その活動に協力しています。

日本ピアノ調律師協会は、ピアノを国民の芸術的財産として位置づけ、その運営管理を行なうことにより社会道徳的要請に応えるべく、会員資質の向上、調律技術者の社会的信用の維持向上に取り組んでいます。カワイでは調律技術者のほとんどがニッピの会員です。

世界最大規模のアフターサービス網

約350名の調律師が直営ネットワーク（日本全国120拠点）に配置され、全国津々浦々のお客様の大切なピアノのアフターサービスに従事しています。全てカワイの社員です。入社後も、数々の技術研修制度により技術の研鑽に努め、お客様のご希望にお応えします。さらに、コンサート会場でのピアノ調律を担当する

MPA(*)は、国内外のコンクールやコンサートの場面でアーティストのハイレベルなご要望にもお応えしております。

(*)MPA: Master Piano Artisan



環境社会報告書のホームページによる開示

カワイのホームページのトップページの「会社情報」から、「環境への取り組み」に進んでいただきますと、過去の環境報告書もご覧いただけます。

<http://www.kawai.co.jp>

環境社会報告書の継続的発行

カワイでは 2001 年より毎年、「環境報告書」を発行し、2004 年からは社会的側面についても記載し、「環境社会報告書」を発行しています。

多くの皆様に持続可能な社会の実現に向けたカワイの活動を知っていただくよう今後も情報提供を続けてまいります。



資料編

環境負荷サイト別一覧

				参 考		基準年				
				1990	2006	2007	2008	2009	2010	基準年比
竜洋工場 静岡県磐田市 (旧舞阪工場を含む) 事業内容：ピアノ製造 敷地面積：168,218㎡	INPUT	電気	GJ	101,341	82,875	67,564	61,328	57,359	58,134	1.4%
		燃料	GJ	28,253	25,176	21,067	16,447	17,501	18,688	6.8%
		水	千㎡	3,330	68.3	46.3	35.9	36.0	39.0	8.3%
		化学物質	ton	0	61.5	58.6	47.0	26.3	42.6	62.0%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	7,632	6,392	5,250	4,576	4,429	3,973	-10.3%
		化学物質	ton	0	19.6	21.3	12.3	11.0	11.2	1.8%
		廃棄物 焼却・埋立	ton	437.3	100.1	52.7	50.4	26.0	33.7	29.8%
		廃棄物 再資源化	ton	102	1,234.7	876.7	811.0	691.3	826	19.5%
(株)カワイハイパーウッド 静岡県浜松市東区中郡町 事業内容：自動車内装部品製造 敷地面積：15,074㎡	INPUT	電気	GJ	14,787	21,629	21,726	14,636	15,141	14,307	-5.5%
		燃料	GJ	11	6,219	6,960	4,189	4,704	3,778	-19.7%
		水	千㎡	28.6	10.6	10.1	5.7	5.3	5.2	-1.9%
		化学物質	ton		47.6	50.6	24.4	26.9	23.4	-13.0%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	1,250	1,645	1,702	1,111	1,170	921	-21.3%
		化学物質	ton		12.1	14.1	7.3	8.6	4.3	-50.0%
		廃棄物 焼却・埋立	ton	218.2	78.5	81.6	58.9	44.9	36.2	-19.3%
		廃棄物 再資源化	ton	32.3	116.9	101.8	63.7	77.3	31.9	-58.7%
メルヘン楽器(株) 静岡県周智郡森町 事業内容：電子楽器製造 敷地面積：11,583㎡	INPUT	電気	GJ	3,914	3,299	3,251	2,949	2,210	2,201	-0.4%
		燃料	GJ	74.7	11.1	11.3	10.7	9.5	8.4	-11.6%
		水	千㎡	0.6	3	2.7	3.4	2.9	1.9	-35.9%
		化学物質	ton							
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	223	184	182	165	124	101	-18.6%
		化学物質	ton							
		廃棄物 焼却・埋立	ton	7.3	11.2	5.3	3.0	1.6	0.0	-100.0%
		廃棄物 再資源化	ton	0	114.5	63.9	39.7	7.6	59.9	688.3%
(株)カワイ音響システム 静岡県浜松市東区篠ヶ瀬町 事業内容：防音室・音響部材の製造 敷地面積：2,972㎡	INPUT	電気	GJ	2008 年より稼動				1,067	1,125	5.4%
		燃料	GJ					0.0	0	
		水	千㎡					0.0	0.0	
		化学物質	ton							
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂					59	51	-13.0%
		化学物質	ton							
		廃棄物 焼却・埋立	ton					0.0	0.0	
		廃棄物 再資源化	ton					2.9	2.4	-17.9%
カワイ精密金属(株)浜松工場 静岡県浜松市北区新都田 事業内容：金属部品製造 敷地面積：26,817㎡	INPUT	電気	GJ	1994 年より稼動	38,671	38,528	34,412	37,622	38,968	3.6%
		燃料	GJ		14.1	12.8	11.6	11.1	10	-8.1%
		水	千㎡		20.5	17.8	17.9	18.7	22.8	21.9%
		化学物質	ton		56.7	49.7	34.0	32.3	20.7	-35.9%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂		2,154	2,145	1,916	2,095	1,779	-15.1%
		化学物質	ton		52.6	44.0	32.0	31.0	15.0	-51.6%
		廃棄物 焼却・埋立	ton		54.3	27.8	22.6	18.5	15.5	-16.3%
		廃棄物 再資源化	ton		39.1	32.5	20.6	32.4	14.8	-54.3%
カワイ精密金属(株)松本工場 長野県松本市 事業内容：金属部品製造 敷地面積：14,612㎡	INPUT	電気	GJ	57,070	48,784	56,882	53,203	45,411	50,632	11.5%
		燃料	GJ	7,132	6,350	7,350	4,744	7,526	7,399	-1.7%
		水	千㎡	42.1	100.3	74.6	70.8	78.5	87.5	11.4%
		化学物質	ton		55.8	77.4	52.0	72.9	85.0	16.6%
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	3,674	3,165	3,686	2,679	3,060	2,834	-7.4%
		化学物質	ton		40.5	58.8	38.0	52.9	60.0	13.4%
		廃棄物 焼却・埋立	ton		12.1	16.9	12.0	10.5	12.4	17.7%
		廃棄物 再資源化	ton		93.7	100.4	77.9	61.4	78.6	28.1%
本社 静岡県浜松市中区寺島町 事業内容：本社機能、研究開発 敷地面積：6,784㎡	INPUT	電気	GJ		9,781	12,096	10,834	9,620	9,823	2.1%
		燃料	GJ		1,215	1,227	646	484	626	129.3%
		水	千㎡		9.7	8.7	7.8	7.4	7.7	4.7%
		化学物質	ton							
	OUTPUT	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂		623	752	644	541	492	-9.1%
		化学物質	ton							
		廃棄物 焼却・埋立	ton		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		廃棄物 再資源化	ton		42.2	32.9	30.2	24.9	22.8	-8.5%

第三者意見

本報告書には、カワイグループの事業活動にともなう環境配慮、社会的責任に対する取り組みがまとめられており、図や写真を多用し、わかりやすい報告書でありたいという気持ちが伝わってくるものとなっている。

報告書で最初に取り上げられているのは東日本大震災復興活動への取り組みであり、被災状況を迅速に把握するとともに、復興のための体育教室・音楽教室による避難所への訪問活動、チャリティーコンサート開催など、音楽の強みを生かし、被災者の心のケアに貢献したいという思いを込めた取り組みが紹介されている。また、節電活動における緑のカーテンに対する取り組みは浜松市からも賞揚されている。

環境報告の項目では改正省エネ法に基づいて算出されたCO₂排出量原単位が前年比2.4%減と着実に減少していることがわかる。一方で、廃棄物排出量は前年度に比べ増加しているが、これは外注工程を竜洋工場構内に移設したためで生産プロセス変更のためのやむを得ない増加とみることできる。実際に、廃棄物排出量は増加したが再資源化率も上昇していることから、廃棄物削減のために不断の努力が続けられていることがわかる。なお、特筆すべきはオールカワイとして取り組んでいるエコアクション21の取り組みにおいて、カワイ精密金属で認証取得に向けた取り組みが始まったことである。環境配慮に対する取

り組みが螺旋階段を登るように高められている様子が見て取れるものとなっている。今年度は現地の長雨のために実施できなかった植林活動や、グリーン調達の一層の強化をとおしてさらなる環境配慮の取り組みがおこなわれることが期待される。

社会性報告の項目では、社内のコンプライアンス体制・内部統制システム、リスク管理体制が適正にまとめられている。また、震災時の安否確認の迅速さから社内の「緊急災害対策本部」が有効に機能したことがわかるが、報告書中にも「緊急災害対策本部」とリスクマネジメント委員会中の「中央防災対策委員会」との関係、「中央防災対策委員会」がどのような役割を担ったかが分かり易く整理されていれば、リスク管理体制に対する理解がより深まったものと考えられる。

以上のように、本報告書は環境社会報告書として優れた内容のものとなっている。今後も環境配慮、社会的責任に対する取り組みの一層の充実が期待される。



東京工業大学大学院
理工学研究科 教授
中崎 清彦 氏

第三者意見を受けて

昨年度に続き、東京工業大学大学院教授 中崎清彦先生から第三者意見をいただくことができました。心より御礼申し上げます。

東日本大震災を受け、被災地の復旧・復興への取り組みにつきましては、音楽文化の担い手として引き続き取り組んでまいります。

また、今後、ご指摘いただきました課題につきましては取り組みをいっそう充実させるとともに、省エネルギー、省資源、海外植林活動および木材調達、グリーン調達といった地球環境に配慮した活動をはじめ、CSR 諸活動を着実に実施してまいります。

最後までお読みいただきましてありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、
下記アンケートにご記入の上、恐れ入りますが、この頁をFAXまたは郵送して頂ければ幸いです。

カワイ 環境社会報告書 2011 へのご意見・ご感想

該当項目の□にチェックをお願いします。

Q1 環境社会報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか？

- | | | |
|------------------------------------|---|---|
| ☐ 投資家・株主として | ☐ 河合楽器と取引関係にある | ☐ カワイグループの従業員・家族 |
| ☐ 政府・行政機関 | ☐ 環境 NGO・NPO として | ☐ 報道機関 |
| ☐ 企業の環境担当者 | ☐ 学生 | ☐ 環境専門家・教育者・研究者 |
| ☐ 事業所近隣の方 | ☐ 製品のユーザー | ☐ その他（ ） |

Q2 環境社会報告書を何でお知りになりましたか？

- | | | |
|--|-----------------------------------|--------------------------------|
| ☐ ホームページ（当社・当社以外） | ☐ 環境セミナー等で | ☐ 新聞・雑誌 |
| ☐ 営業マン・教室・先生から | ☐ その他（ ） | |

Q3 この環境社会報告書をお読みになってどのようにお感じになりましたか？

- | | | | |
|-------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ・報告書のわかりやすさ | ☐ よくわかる | ☐ 普通 | ☐ わかりにくい |
| ・内容 | ☐ 充実 | ☐ 普通 | ☐ 物足りない |
| ・情報量 | ☐ 多すぎる | ☐ 適切 | ☐ 不足である |

Q4 興味をもたれた記事、印象に残った項目は？（いくつでも）

- | | |
|---|--|
| ☐ 表紙 | ◎社会性報告 |
| | ☐ 経営計画 |
| ☐ カワイグループの事業と会社の概況 | ☐ コーポレートガバナンス |
| ☐ 編集方針 | ☐ 株主・投資家の皆様とともに |
| ☐ 社長コミットメント | ☐ お客様との関係 |
| ☐ カワイの経営の理念・行動指針 | ☐ 文化貢献活動 |
| ☐ カワイグループのあゆみ | ☐ コミュニケーション |
| ◎東日本大震災への対応 | ☐ 地域社会との共生 |
| ☐ 東日本大震災への対応と支援活動 | ☐ 情報発信 |
| ☐ 節電活動 | |
| ◎環境報告 | ◎資料編 |
| ☐ カワイの環境への取り組み | ☐ 環境負荷サイト別一覧 |
| ☐ 地球環境憲章・環境方針・環境推進組織 | ☐ 第三者意見 |
| ☐ 環境経営 | ☐ アンケートのお願い |
| ☐ 2010 年度の環境目標と実績 | |
| ☐ 事業活動にともなう環境配慮 | |
| ☐ 地球温暖化の防止 | |
| ☐ 廃棄物削減・再資源化 | |
| ☐ グリーン調達 | |
| ☐ 環境配慮型製品 | |
| ☐ 環境パフォーマンス | |
| ☐ マテリアルバランス | |

Q5 環境社会報告書の内容についてのご意見や、改善するためのご提言をいただければ幸いです。

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下欄にご記入願います。（個人情報に関しましては、ご本人の承諾がない限り第三者に開示することは一切ございません）

お名前	ふりがな		
	男・女	年齢	歳
ご住所 (勤務先・ご自宅)	〒 —		
ご連絡先	TEL	FAX	
	E-mail		
ご職業 (勤務先・部署・役職名)			

FAX 053-457-1250

〒430-8665 浜松市中区寺島町 200 番地 株式会社 河合楽器製作所 生産統括部 CS 環境室 行



株式会社 河合楽器製作所

お問合せ先

河合楽器地球環境委員会

事務局：生産統括部CS環境室

〒430-8665 静岡県浜松市中区寺島町200番地

TEL: 053-457-1252 FAX: 053-457-1250

URL: <http://www.kawai.co.jp>